



1996(平成8) 本校を南側上空より望む

終戦の翌年、昭和二十一年四月に旧制中学の最後の生徒として入学した私は、生まれも小学校も地元出身という事と現在も武蔵関駅近くに住んでいることから、変わりゆく石神井高校周辺の変化は熟知している積もりです。

合計すれば、中学生として三年、高校生として三年、PTAを昭和五十七年三月に終える迄、実に九年母校に在籍した事になります。

母校の石神井中学校が出来た頃、石神井生誰かが在校中に一度は訪れる武蔵関公園ですが、ボート池の中州に動物園があった事をご存知の方は少ないだろうと思います。猿、孔雀、鶴、あひる等、池には鮒、蛙、ざりがに、どじょう、鰻の類までが棲んでいたものです。そんな閑閑な農村だった母校周辺も、戦争の傷は相当なものでした。というのは近くに中島飛行機製作所(学校から南西方向三キロ)がありB二九はそれを目掛けて容赦なく爆弾を落としていったからです。流れ弾か、軍の協力工場に学校が見えたのか、校舎西側にあった母校の講堂も焼

変わりゆくわが武蔵関

福島信雄(高校四回)



石神井高校同窓会紙
「きずな」第47号
平成10年5月発行

Contents

カラー特集

変わりゆく母校の界限

特集

活躍する石神井の女性たち

- ・近況・同期会報告
- ・黒菱山荘関連
- ・卒業生の進路
- ・校歌祭のご案内

その他のお知らせ

夷弾により焼失しました。講堂の焼失だけで済んだのは、今の同窓会長のお父さん、井口喜代太郎さん達の必死の消火活動のお陰です。延焼を免れたお話は石神井高校の歴史を語るとき、美談として語りつがれてきました。焼失した跡地は基礎コンクリートがそのまま残った狭い空地で、さつま芋を僕ら生徒が作り食料不足を補ったのです。何せ、武蔵関駅から学校の通学路にある食堂は駅前に嵯峨さんの経営するDPを兼ねたラーメン屋さんが一軒あるのみでした。一杯三十円のラーメンは旨かった。今の喫茶店「白鳥」の前身です。PTAに携わって実感した事です、車の普及と共に通学路が日増しに狭くなってきたため、歴代の校長、教頭さん達が都に拡幅の陳情を十数年間続けてきた結果、近年漸く整備されたのはよいことでした。しかし当時、緑化運動を推し進めて来られた国語の星野喬先生(新宿、戸山在住)が植樹された樹木が、道路拡幅により無惨にも伐採されたのは痛ましかったです。



1947(昭和22) 米軍による垂直撮影



1955(昭和30) 本校を東側から望む

同窓会のシーズンがやって来ました。
母校に集まれ！今年は6/13(土)

はじめまして

校長 外池 武嗣

前校長、栃本忠良先生の後任として、四月一日付
けで着任いたしました。同窓会の皆様方、どうぞよ
ろしくお願いいたします。

私は三校の高等学校で社会科地理の教諭として
勤めたあと、昭和五十九年に都教育委員会に入
り、都立教育研究所や教育庁指導部で教員の研修
や様々な教育課題を担当し、四年前からは主任指
導主事として同和教育、安全教育などを小学校、
中学校も視野に入れながら行政に携わってきまし
た。

校長室には歴代の校長先生方の写真が掲げられて
おり、古い順にお見受けすると第七代目の鈴木正三
郎先生は、昔、私が高校生（都立隅田川高校）の時
の国語の教科担任でしたし、十一代目からの川島誠
一、滝澤利夫、齋藤範里の各校長先生とは、教育庁

臆下丹田に力を

同窓会 会長 高橋 勇（中二）

東京の四月は例年になく雨の日が多かったのです
が、これもエルニーニョ現象の影響なのでしょう
か。それに拘わらず、会員各位におかれましてはご
清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、平成と年号が代わって早くも十年たち、母
校を卒業した同窓会員の総数も一九八五名と二万
人近くの多数となりました。年齢も中一回生は七十
を越えてしまいました。そのなかで私が嬉しく思う
のは、普段意識していなかったのに、偶然のキッカ
ケや思わぬところで、それまでは他人であった者が
「石神井生」という目には見えない同窓の「きずな」
で結ばれて親近感が生まれ、以後のお付き合いが続
いている知らせを受けることがあるときです。
ところで、昨今の世相は、政治、経済、教育、ど
れをとってもいま一つパツとしないようです。メ

や教育研究所でお世
話になった先輩の
方々でもあります。

お写真を見るにつ
け、これまでの業績
を引き継ぎながら、
石神井高校が発展す
るよう校長としての

職責の重さに身の引き締まる思いであります。

着任の印象としては、どなたも感じることと思
いますが、武蔵野の面影を残す校門付近のヒマラヤ
杉、クスノキ、校庭の桜やイチヨウなどの古木に学
校の歴史や伝統の重みを感じます。いずれも冬眠か
らさめて水を吸い上げ、若葉を吹き出しておりま
す。校舎内外をゆつくり巡回してみると、手入れし
ながら施設を大切に使用していることが感じとれ
て、敷地が広く、グラウンドから眺める校舎の景観は
また違って見えました。



ディアの急激な発達と増
大に伴い、情報開示によ
る「国民の知る権利」は
飛躍的に拡大しました
が、その反面では情報過
多による実像と虚像の無
差別化や、類似、模倣、横
並び意識などの、目先に
見える事象に踊らされて
しまう危惧を感じています。

私は敢えて古い言葉を
引き合いに出しますが、今こそ「臆下丹田（せいか
たんでん）」下腹部に力を入れて、健康と勇気を引
き起こし、メディアに使われることなく、自己の責
任と活力をもってこの不確実な時代を乗り越えてい
こうと、自分に言いかけせています。

同窓会では、各界各方面で活躍の全会員の皆様
へ、前に述べたような「きずな」結びの一助ともな
るのがこの会報誌なので、本年は紙面の一部カラー
印刷を実施しました。ご感想等を広報担当にお聞か



前任の校長先生とは引き継ぎの中で、本校は自主
的、自立的に行動できる生徒の育成をめざしてきた
こと、部活動が活発なこと、そして何よりも生徒の
ために一生懸命な先生が大勢いることなどを話され
ていましたが、数日での感觸はつかめたような気が
いたします。

自分のモットーとしては、様々なことに興味・関
心をみずみずしくもっていたいこと、趣味は運動の
ために時々、妻と山歩きをし、移りゆく季節を感じ
取ったり、四季折々の草木や山草を育てたりして気
分転換を図っています。

若い生徒達の声が聞こえる学校は、やはりよいも
のです。石神井高校のよき伝統を受け継ぎ、学習
部活動の充実やその結果として、生徒の進路におい
ても一人一人が目標を達成できるように支援し、同
窓会の皆さまからも一層、信頼され期待される学校
づくりに努めたいと考えていますので、今後ともよ
ろしくお願いいたします。

せくださると、励みになります。これに関係する大
きな課題もあります。それは、本部からは全会員に
発送しているのですが、住所変更等で返送されてく
る数が多いことです。

このことは同窓会のもつ役割で最大の、正確な
「会員名簿」の発行の困難性につながっています。
住所変更等によって、本部との絆が一度切れてしま
うと、以後連絡不能になることが多いのです。そこ
で、お願いですが、住所変更等の場合はぜひ本部ま
たは各期の幹事さんにご通知ください。二〇〇〇年
には新しい全会員名簿を発行する予定です。

また、昨今から広報委員会の方のご尽力で、試験
的にインターネットに同窓会のホームページを開設
しています。これも「きずな」を結ぶ新たなメディ
アとして充実を考えています。会員諸氏のご意見等
をお聞かせください。

末筆になりましたが、「きずな」のよりどころの
母校の発展と、会員各位の益々のご隆盛、ご多幸を
祈念いたします。

ありがとございました

前校長 栃本 忠良

都立石神井高校にお世話になって三年、こ
の三月をもって定年退職いたしました。非力
な私としては伝統ある石神井高校に対して、
何もお役に立てなかったのではないかと、母
校を愛する同窓生の皆様には申し訳なく思っ
ております。しかし、ただひとつ、多くの教職
員や生徒・同窓生の皆さんが維持してこれら
れた石神井高校の灯火を消すことなく、次の
方々に引き継ぐことができた、今はほっと
しております。

この三年間の私の在任期間中の、同窓会の
高橋会長、千賀・山荘長を始めとする皆様のご
支援とご協力に対して大変幸せに感じていま
すと同時に、私情ではありますが深く感謝申
し上げます。

振り返りますと、私が着任して早々に開催
されました体育祭では、この年同窓会より寄
贈されました深紅の大優勝旗を、私の手から
優勝した団に手渡すことができました。優勝
旗のあがった手渡す重みは、手渡す私にと
りましても感激でした。

しかし
毎年大勢
の受験生
を集めて
いた石神
井高校が、
悪夢の年
度末を迎
えてしま
いました。

一昨年一
次募集で
定員割れ



石神井の思い出

阿部勤也(高五回)

今年の末には大学を定年退職する身になって、高校時代を思い出そうとしてみると茫漠としてとりとめがない。すぐに思い出すのは木造の校舎と黒い学生服の友人たち、そしてFの字型の校舎の中央の短いでっぱりにあった外階段の二階から逆さまにつるされている某君の姿である。私達は授業の合間に持て余していたエネルギーをこのようにして発散させていたのである。

高校時代の生活がどのようなであったかを思い出すことも難しい。埃っぽく、ざわさわした感じは今も多少残っている。高校二年の時に高田馬場にあった高田外語という予備校に英語の授業を受けにいったとき、たしか蒔田栄一という教師が高校とは全く異なった授業をしているのに驚き、彼の皮肉すら新鮮に聞こえたことも思い出す。後に小樽商科大学に赴任したとき、この蒔田氏がかつて商大の教師であったことを知った。高校時代の唯一の楽しい思い出は、大島への遠足である。晴海埠頭から比較的大きな船で出帆し、途中で船を止めて明け方まで流している間も私たちは眠ることなく、しゃべっていた。当時は「ベッサメ・ムーチョ」という歌が流行っていて、行きも帰りもその歌が流されていた。船の



中の出来事は良く覚えていたのだが、大島で何をしたらそれがさっぱり思い出せない。

高校の授業で思い出すのは石木誠一先生の世界史である。先生の「図解世界史」が出版されたばかりで、それを使っていた。先生は教官の説明のところで、「図説」らしく説明しようとしたのだが、うまくゆかず、赤い顔をして「ぼっさりとやってしまうのだ」といわれたとき、「鐘の鳴る丘」の黒ちゃん役をしていた戸村君が「先生、具体的に説明してください」といったので教室中が大爆笑になった。あのころは先生も純情であった。また英語の授業の時、何かの詩を英訳することになり、当てられた生徒がトンボの英語が解らず、隣の生徒が鉛筆を示したので、「トンボウ」とやったことがあった。「日本人は誇りを忘れてはならない」という文章の英訳の時も誇りが解らなかった生徒に隣の生徒が「ダスト」と教えたこともあった。

いちばん懐かしいのは繁田邦海先生で、靴から十センチほど上に裾があるズボンで、坊主頭の無骨な先生であったが、熊本の人らしく、授業中にも「田原坂」を良く歌った。私の結婚式の時にも「右手に血刀弓手に手綱」と歌って下さった。最後にお会いしたのは武蔵小金井の駅前であった。そのとき私は大学院生で何かに抗議して駅前でピケを張っていた。そのとき通りがかった先生は「苦勞さんですな」といって私たちの動きを見ていた。授業の最中にしゃべっている学生がいたらチョークを投げた。それが良く当たったのである。

かえすがえすも残念なのは図書館の焼失である。大学院生の時、私は石神井高校の非常勤講師として英語を受け持っていた。そのとき校舎が全焼し、図書館も焼けてしまった。在校中は図書館委員であったから、図書館の全貌を知っていた。そこには塙保巳一の「群書類従」からかなり高度な書籍もあった。とりわけ惜しまれるのは当時借

り出した人の名前が書籍の最後に付けられていたカードに記されていたことである。私が一年の時にどのような書籍を借り出したのかがかなりあとまで辿れたのである。卒業の時、後輩の図書館委員から小さな書架を買った。それは今も私の机の上にある。

大学に入学したとき同じ高校の出身者は六人であった。そのうちの一人川口君は大学の柔道部で練習をしているとき、怪我をしてそれがもとで亡くなった。石原慎太郎がかれをモデルにして小説を書いている。最近石神井高校の出身者が少なくなり寂しい想いである。私の高校生活は時代と環境の点で黒井千次の「春の道標」とほぼ重なっている。しかし私の親は判事ではなかったし、私には高校時代にさしたるロマンスもなかった。

当時の中学や高校の生徒は全体として貧しく、自分たちの環境に満足していたわけではなかった。しかし大人になれば少しは良くなるだろうと期待はもっていたのである。私の同級生はあるとき二十年後の同窓会という文章を書いた。それによると会場にボロボロの旧制高校の服を着た男が参考書を読みながら現れる。それはまだ浪人をしている何とか君だ。赤ん坊を抱き、背中にも子供をおんぶした中年女性が現れる。それは高校時代に美人の誉れ高かった何とかさんだ。最後に大きな外車が横付けされ、そこから中年紳士が降り立った。あれは誰だろうと思ったら、私でしたという落ちがついていた。

現在の子供たちは、当時とは比較にならないほど豊かになったが、将来に何の期待ももてなくなっている。それが現在の子供たちの危機の原因であろう。私たちの高校時代は貧しかったが、日本の民主主義の将来に期待をもつことが出来た。それは幸せだったというべきであろう。

(二橋大学学長)

阿部学長は、平成九年四月、春の褒章で紫綬褒章を受章されました。

を経験したのです。幸い、二次募集では優秀な生徒を集めることができましたが、やはり最初から志望してくれる生徒を集めるのが本来の姿であります。これをきっかけにして、石神井高校のPR作戦が展開されることになりました。昨年は再び三学区で最も大勢の受験生を集める高校の一つに返り咲きました。

都の財政難で、校舎の改築はしばらく先に延びています。今の日本は、生徒の激減が続いています。都立高校の統廃合がさらに進行すると思われまふ。しかし、私は皆様の力を得て、石神井高校がきつと生き延びていけるものと期待しております。創立七十周年の頃には、きつとピカピカの校舎になって、練馬の地にその偉容を誇っていることでしょう。

石神井高校と、その同窓会が永遠に発展を続けていかれますよう祈念して、お礼の言葉とさせていただきます。

※写真は、三月三十一日 石神井高校を去られる日のもの。

(高校十五回)

御供 多恵子ソプラノリサイタル

♪歌はピレネーを越えて♪

後援 スペイン大使館

日時 一九九八年九月二十三日(水・祝日)

午後一時半開演

会場 三鷹市芸術文化センター(風のホール)

(中央線三鷹駅南口より徒歩十五分)

会費 全自由席三五〇〇円・当日券四〇〇〇円

※チケットセゾンにて八月より発売

お問い合わせ

042(995)3146(青木)

曲目 ラ・パロマ、ファルルカ、七つの民謡集より、カタルーニャ語の「母の歌」『永遠の哀歌』などスペイン歌曲の他、ヴィラ・ロボスのブラジル風パッサダよりアリア、ヴェ・マリア他

※石神井同窓生は前売り三〇〇〇円に割引します。

石神井生の昨今

城和裕(高校十二回)

今年の石神井高校の卒業式を拝見する機会を得たのでちょっと一言。

先生方やPTAの皆さん方の心配は最近の都立高校の卒業式が厳肅なムードからほど遠い自己PRの場所になりつつあることで、これは西高を始めレベルの高い高校ほどその傾向は強いようだ。



そこで今年、

石神井高校では新しい試みとして厳肅な卒業式のすぐ後に、卒業生主体の卒業パーティを企画実行した。新卒業生二百八十八名のほぼ全員が参加して楽しい雰囲気の中、クラス毎のテーブルを囲み一堂に会して、三年間を振り返って卒業の喜びを確かめていた。

先生を中心にお互いに写真を撮りあったり、体育祭や旅行のVTRを楽しんだり、ゲームにチャレンジしたりして微笑ましかった。羽織袴の正装から振り袖姿の美女達、またダークスーツの男性群、平服の人たち。しかし茶髪が少し目立って変わった服装の集団は見受けられなかった。



化粧した坊主頭の司会者とは！…シュールです。

昔の我々の時代の詰め襟、制服のみの時代から比べると、相当自由な雰囲気とはいえるが現代風で違和感はなく内心ほっとした。

他所の都立高校でもPTA主催の謝恩会が多いが、ホテルなどでやると親たちの衣装合戦になって見栄の張り合いの感があるので、今回のこの試みは主役が卒業生自身と先生なので大いに結構なことだと思った。将来は同窓会としてもメンバーとなる彼らに何かお祝いをしてあげられたらと考えてが如何なものだろうか。

今年の卒業生の担任の先生方を紹介すると、

Dクラス 山下 章先生(保健体育)十九回生

Gクラス 加藤純子先生(保健体育)三十回生

(四月より都立竹早高校へ転出)

Bクラス 木本恵美子先生(国語)二十九回生

(四月より都立牛込商業高校へ転出)

Fクラス 塚本慎史先生(理科物理)

Aクラス 岩崎秀夫先生(社会)

Cクラス 田島英治先生(英語)

Eクラス 石田

清司先生(数学)

(四月より都立足

立高校へ転出)

と言う訳で、な

んと七名の先生の

内三名が同窓生の

先生で、また三名

の先生がこの四月

に他校へ人事異動

されるといふ誠に

残念な話なのである。我々の頃は三十年も勤続の

名物先生が沢山いたのに……。転出の先生方、長

いこと有り難うございました。今後ともお元気で

益々のご活躍を祈っております。



加藤純子先生へ花束贈呈

平成十一年は石神井六十周年の前夜祭です。同窓会に結集しましょう！

先生方の異動

本年も人事異動で次の先生方が異動されました。

定年 栃本忠良先生(校長)

中澤正樹先生(音楽)

蒺沢 先生(数学) 嘱託



中澤先生

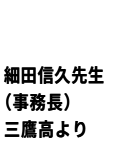


蒺沢先生

転出された先生方
(カッコ内は教科と在職年数)

藤原清子先生
(英語) 鷺宮高へ(12)佐藤良徳先生
(生物) 鷺宮高へ(13)西宮正喜先生
(社会) 杉並高へ(5)木本恵美子先生
(国語) 牛込高へ(11)相川恵子先生
(国語) 第四高へ(11)加藤純子先生
(体育) 竹早高へ(13)久保博義先生
(理科) 西高へ(12)石田清司先生
(数学) 足立高へ(12)長木喜之先生
(事務長) 砂川高へ

転入された先生方

外池武嗣先生
(校長) 指導部指導主任から島田美穂子先生
(生物) 清瀬東高から奥野美智子先生
(地理) 田無工業高から古川進三先生
(国語) 明正高から荻原土信先生
(国語) 東村山高から小沢優子先生
(体育) 新採用森谷良悦先生
(化学) 武蔵丘高から白井賢一先生
(音楽) 小笠原母島中から天野恵司先生
(数学) 嘱託(竹早高より)松沢亮先生
(数学) 嘱託(井草高より)越野舜先生
(英語) 嘱託(小平高より)細田信久先生
(事務長) 三鷹高より

協動物病院

獣医師 脇利彦(高十八回)

〒177-10053

東京都練馬区関町南二一三十一八

TEL/FAX 03(3928)8063

Email:waki@mx.meshnet.or.jp

統計から見たクラブ活動

前・本校生物科教師 佐藤良徳

石神井の校風の一つに「さかんなクラブ活動」があげられる。しかし最近では、以前と比べて淋しくなった、放課後が静かになったという声も聞く。部員が数えるほどしかないため、活気がなく盛り上がりがない、人数が少なくチームが組めないというクラブもある。

生徒のレベルが下がっていると、クラブも成り立たなくなると良く言われる。もしかして、本校の生徒もクラブに入らなくなっているのだろうか。毎年発行される本校の「学校要覧」では、様々な統計をまとめているが、クラブの加入者の統計をもとに過去と比較してみよう。

なお、運動部と文化部の他に同好会があるが、同好会は部に昇格することがある。このための活動内容により、運動系・文化系の2つに分けて比較することにする。また統計は毎年五月上旬頃に行われているがそのときに報告された人数で集計している。

一・加入者数の比較

「クラブに入っている生徒」(以後加入者とよぶ)は、十年前には九八六人いたのが、今年は六二二人となり三十四%も減った。文化系では、三一八人から一二七人と六十一%も大きく減っている。しかし、在籍生徒数も二〇四人から八四八人と三十一%も減少しているのだから、減少したのはやむを得ない。これと比べると、運動系は六六八人から四九五人と減ってはいるものの減少率は二十六%と、減り方は緩やかである。

在籍生徒数自体が大きく変わってきているので、在籍数に対する加入者の比率で見ると、文化部の加入率は二十四%から十五%へと、九%減少している。しかし、運動部の加入率は五十一%から五十八%と、むしろ増加している。文化部の減少分を運動系の増加でカバーしているようで、加入者率の全体では七十五%から七十二%と、ほとんど変わっていない。これで見ると「多くの人がクラブ活動をしている」傾向は変わっていない。

二・加入者率の比率

加入者の割合は、学年ごとにも違っている。一年生で比べると、文化系では十年前と比較して十%減少しているが、全体では八%増加しており、運動系では十七%も増加している。全学年での変化と比べて、さらに増加が著しい。この数値は、波のように凸凹を繰り返している。なぜか三年ごろくらいに加入者が少なくなる周期があるようで、今年はその少なくなる年のように、昨年は八十八%もの一年生が加入していた。来年は、きっとまた増えることだろう。

以上見てきたが、人数そのものは確かに全体的に少なくなっているが、運動系全体ではむしろ増加し、人数の多い「人気の高いクラブ」もある。

三・加入者の変化の影響

加入者の減少の原因としては、「少子化」が大きい。日本全国で子供の数が減少している。本校でもかつては九学級、一クラス四十八名くらい在籍していたのが、現在は七学級、一クラス四十名くらいと全体でも大きく減ってきている。

これに伴って教員も減ってきている。このため顧問の確保が大変になっている。教員数が減っても、仕事は減らない。教員一人あたりの仕事はかえって増えて忙しくなっている。学校の予算の総額も人数が少なくなったため、減らされている。このため各クラブへの予算の配分も厳しくなってきた。しかし、生徒の数が少なくなっているというこ

とは悪いことばかりではない。全国的に生徒数が減っているから受験の競争が緩和されてきた。以前と比べて、体育施設の改築をはじめ、校内の施設も少しずつ充実してきている。生徒が少なくなると、校内の施設は余裕をもって使えるようになったはずだ。このような点では条件は良くなっている。クラブに入らずに放課後は、学校の外での趣味、遊び、アルバイトに精を出している人もいる。こうしたことも決して価値がないというわけではないが、クラブ活動は在学中しかできない。石神井では昔と同様多くの人がクラブに入っているし、条件も良くなっていることもある。頑張ってもらいたい。

平成9年度
進路状況について

「サンデー毎日」の集計には載っていませんが、筑波大学と千葉大学に一名ずつ合格、また東京理科大学二名、早稲田大三名、立教大二名の合格もあり、他の各大学も実際の数値はもう少し多めとなっています。進路指導の先生によりますと、進学については底をうち、今後少しずつ上昇する機運にあるとのことです。しかしながら、本年度の都立高校進学案内書によれば、第三学区内での合格予想偏差値は、西六十五、富士と大泉六十一、豊摩五十八、井草五十六、石神井は杉並、武蔵丘と共に五十二、鷺宮と荻窪が四十八、以下光丘、永福、練馬、大泉北となっており、ちょうど中間で、しかも隣接校の大泉ばかりでなく井草にもかなり水をあげられた状況になっています。

新卒業生の進路

	男子	女子	合計
四年制	28	39	67
短大	1	33	34
専門校	20	31	51
公務員	0	0	0
他就職	1	2	3
浪人	96	37	133
合計	146	142	288

卒業生の進路状況 井草・大泉との比較

学校名	石神井	井草	大泉
明治	7	15	31
法政	8	17	30
中央	3	4	25
青学	1	3	11
日大	13	24	36
東洋	6	22	20
駒沢	5	13	12
専修	8	14	12
明学	4	2	8
学習院	2	1	10
成蹊	2	7	25
成城	1	3	5
武蔵	4	13	22
國學院	4	3	5
東海	5	4	5
理大	1	7	12
芝工	1	2	7
武蔵工	1	2	1
電機	6	6	3
駿河	8	14	4
獨協	6	6	13
文教	2		1
国立			8
早稲田		3	4
慶応		1	3
立教		5	25
上智		2	5
合計	98	202	380

出典：「サンデー毎日」4/19号記事
「全国著名1380校の主要大学合格者数」から

★★特集★★ 活躍する



石神井の女性たち

近々60周年を迎える石神井高校。社会の第一線で活躍する多くの同窓生がいるが、当然女性の同窓生も活躍しています。いわゆる社会的な地位などという基準ではなく、多様な価値観で活躍される女性同窓生を中心にご紹介してみたいと思い、この特集を企画いたしました。

人との関わりあいの中で――

障害者能力開発校での仕事

山崎芳江さん(高八回)

私は公立中学校社会科教員、私立東京女子学院講師を経て、二年前より生活指導相談員として東京障害者能力開発校に勤務しております。本校は小平市にあって、国立・都営の障害者のための職業訓練施設です。授業料は無料で、訓練費の支給を受けながら、障害者が社会で自立をめざす為に、一年間技能の習得に励んでいます。

通校生と無料の付属寮があり、北は北海道から南

は沖縄までの生徒が寮

で生活しながら学び、

年齢も中学校卒業以上

六十才までの幅広い層

の方々が、電子機器・

ビジネス情報・グラ



フィックアート・アパレル・木材加工・実務など十以上の各科に分かれて、学習・技能の習得を目指しています。

相談員は私を含め三人おりますが、そのうちの一人は石神井高校後輩の第十八回生。小林幾子さんで、的確な判断力と行動力で活躍しており、信望を集めております。

私は教員時代より、人との関わり合いの中に身をおいてきましたが、教員と相談員の立場の違いや、幅広い年齢層の方々との触れ合いの中だと、自分が話したり、行ったことがそれでよかったのかどうか自問自答の繰り返しです。

生き方(考え方・性格)、家族関係、異性・友人関係、人間関係、病気・障害に関する悩み、校・寮生活のこと、訓練・学業に関することなどの相談がありますが、話を聞くことの大切さを心掛けながら共感したり、助言したり、励ましたり、一緒に考えてきたりしております。

障害を体験した方々しかわからない苦しみ、悩み、生き方への問いかけ、思いやり、やさしさ、たくましさなどを聞きしていると、教えられ、感動を受けることが多々あります。

多くの方との出会いや触れ合いを大切に、感謝しながら過ごしていきたいと思っております。

地域医療に貢献

田中和子さん(高十回)

石神井高校の三年間は、立派な先生方と良い先輩、友人達に出会い、とても恵まれた高校生活でした。当時は偏差値、受験戦争とは無縁ののんびりとした時代で、勉強、運動、クラブ活動、友人との語らいなど、本当に楽しい青春時代でした。親が高校に行けとか、高校くらい出ていなければという気持ちで入って来る人は稀で、自分の意志で、勉強したい人が入学して来ました。現在問題になっていくわゆる「いじめ」などは全くなく、上級生もクラスメイトも皆親切で、毎日学校

に行くのが楽しく、無遅刻、無欠席で三年間を過ごしました。

一年C組猪谷桃彦先生のクラスでした。秋の体育祭の仮装行列に、私達のクラスが優勝しました。当時エリザベス女王の妹姫のマーガレット王女とタウンゼント大佐との恋のいくえが世間を賑わしていました。「結婚おめでとうございませう」というテーマで準備を始めました。マーガレット王女は栗原さん、タウンゼント大佐は田島君、侍女に三原さん、朝倉さん、井口さんとその他数名、女子で背の高い中下さん、私と男子十数名が侍従と近衛兵に扮しました(この時の写真が手元になかったので、もし記憶違いでしたらごめんなさい)。タウンゼント大佐の正装はたしか小森君の家からお借りしたと思うのですが、マーガレット姫、侍女やその他の衣装は放課後にクラス全員で協力して、作成に約一ヶ月を費やしました。近衛兵の帽子は竹ひごと新聞紙で外側に半紙を張り墨汁を塗りました。ところが体育祭の三日前に、エリザベス女王とイギリス正教会の反対で御成婚は成らず、姫は「タウンゼント大佐をあきらめます」との声明を出されました。狩谷先生のアドバイスで急遽「二人に幸あれ」とテーマを変えました。マーガレット姫に世間の同情が集まったという話題性もさることながら、クラス全員の協力で素晴らしい出来映えであったことが優勝の要因になったと思います。

フォークダンスにも楽しい思い出があります。昼休み、放課後に放送部が音楽を流し、校庭でフォークダンスが行われました。わたしのひそかにあこがれていたF先輩と話したり踊るのを期待して、よく参加しました。

在校中はほとんど受験勉強をしなかったため、二年間の予備校生活を体験しました。縁あって三重県立大学(現国立三重大学)医学部に入り、卒業後は勤務医を経て、昭和六十二年から保谷市にて小医院を開業し今日に至っています。

二年と三年のクラス担任の三橋重男先生には大

変お世話になりました。将来の進路や家庭内の問題で悩んでいる時に、先生の適切な助言と励ましで立ち直ることが出来ました。

現在医師としてささやかではありますが、地域医療に貢献できるのは、石神井高校に於いて素晴らしい恩師、先輩、友人達との出会いがあったからだと言っても過言ではありません。

石神井高校に入ったことを誇りに思い、この気持ちは卒業して四十年たった今でも変わっていません。

ベテランナレーターとして活躍

長谷由子さん(高二十回)

長谷さんは、高校二十回生。東洋大を卒業後、局アナを経て七十年代に放送タレントとして活動した。現在は、主としてテレビやラジオ、ビデオパッケージなどのナレーターとして活躍中。

★ 現在のお仕事について伺います。

テレビ番組やビデオなどで、ナレーションを担当する仕事ですが、いわゆるアナウンサーとは違って、もう少しタレント的な要素がありますね。テレビ番組のレポーターもやっています。今は、主として企業PRのビデオのお仕事が多いのですが、いろいろな教材ビデオ、コンピュータのマニュアルビデオなんかもやっています。

若い頃は、一時「俳協」という劇団に所属していた女優として活動したこともありましたが、だんだんとナレーションがメインになりました。現在は、プロダクションの養成所で講師もしています。

若い頃は、一時「俳協」という劇団に所属していた女優として活動したこともありましたが、だんだんとナレーションがメインになりました。現在は、プロダクションの養成所で講師もしています。



―― ずいぶんいろいろな活動経験をお持ちですが、ベテランと呼ばれることについてはいかがですか？

いろいろな仕事をしてきました。あつという間に、二十五年くらいのキャリアになってしまいましたが(笑)。

最近は少し自分のわがままをさせていただけようになつてきたので、納得できる仕事をしたと思うようになってきました。

十年くらいまえの「バブル」が華やかだった頃は、それは忙しかつたです。景気がよかっただけではなく、企業PRビデオのブームだったせいもあって、一日に三本も四本も仕事が入ることが珍しくなつたです。今はそういったビデオは制作される本数も激減しました。

また若い子たちがたくさん入ってきていますから、私自身の仕事も量は少なくなつてきていますね。もちろん、歳相応に落ち着いた声が必要とする仕事もありますけれど、それに私を指名してくださる仕事もあります。仕事は大切にしたいと思っています。

「趣味も楽しんでおられるそうですがええ。今ダイビングにはまっています。といつても、もう二十年ぐらいいなっています(笑)。私の名刺の裏は、自分のダイビング姿です。

潜るだけでも楽しいのですが、最近は水中写真にかなり凝つてるんですよ。ちょっと前に、水中写真とエッセイのある雑誌に連載していたくらいに入れ込みようなんです。普通は、水中カメラというところと二コノスというカメラが一般的なんですが、私は通常の二コノスの一眼レフを、ウォーターハウジングに入れて使っています。私の技術の問題かも知れませんが、このシステムの方が撮れる写真がクリアなんです。全自動のカメラの方が、ラクです(笑)。

今はモルジブに通つてます。ゴールデンウィークもずつとむこうです。ちょうど今、持っていくフィルムと電池を仕入れてきたところなんです(笑)。

最後に、お仕事に対するポリシーのようなものがありましたら……

アナウンスの講師として後輩の指導もしていますが、自分自身も現役として活動し続けたいと思っています。「良い仕事をなるべく長く続けること」これが今のポリシーですね。(聞き手・板谷)

ローマを拠点に

歌手活動を続けている

野田理恵子さん(高二十七回)

イタリアを中心に活躍している歌手の野田さんに、「活躍する石神井の女性」というテーマで自身の紹介をお願いしたところ、お手紙をお寄せいただきました。

ローマでのお花見

ローマには、エウル公園の池の両側に、「日本の散歩道」という通りがあつて、今、桜が満開です。桜は何処も同じで、はかなく美しいものです。お花見をしている老人や幼児、子供は、どの国でも同じです。そういう立場の人にも、個の尊厳を感じ、異なる文化を冷静に見つめたいと思います。お花見と言え、芸大に通つていた頃、上野公園の桜は美に素晴らしかった……。

ローマでお花見をしていると、運命というものを感ぜてしまいます。エディプス・コンプレックスのように、それから逃れるのではなく、今を、この瞬間を有意義に信じて豊かに生きたい。でも「運命」というものは、また、自分で造り出していくもの、これも確信しています。時間をゆったりとかけて、何かを造り出すのです。

縁側について

私はイタリアに、日本の庭園、海や島などを表す石庭を造つてみたいのです。ヨーロッパの家には、縁側というものがありません。家の中と外の中間的存在で、ユニークなものです。縁側にいると自然に



溶け込んで行くというか、生まれたままの自分に返るといふのか、そのやさしさに触れると、音楽が聞こえてきて、

私は思わず歌っているようです。縁側の延長ではないけれど、キャンピングカーで、自然と一体になつて、日本全国縦断コンサートなどを計画したりしています。日本各地の小さな町の人々と語り合い、その美しさや特産物などを味わいたいと思っています。これは本当に最高の楽しみです。

浅利慶太先生のこと

舞台の上で歌っていると、自分が裸だと感じられる事がよくあるのです。大学時代に劇団四季で研究生をしていた時に、私の恩師、浅利慶太さんが「裸だと感じられるくらいに自分を表現しなければいけない。」というような事を言っておられたのを思い出します。浅利先生とは、その後ミラノのスカラ座研修所で、私が勉強していた頃スカラ座で「蝶々夫人」の演出をされた時に再会しました。またゆつくりお話がしたいです。

私は、いつも歌いながら、旅をし、感動し、恋をし、苦しみ、なぐさめられ、疲れ果て、愛し、喜び、叫んで、成長し、何度が死に至つたりしているのです。それを、どれだけ素直に感じられるか。どれだけ自分に素直になれるか。人に言われた事をどれだけ素直に受け入れることができるか。課題です。

夫・家族のこと

ピアノの夫は、私のために、オペラに歌曲にと没頭していき、世界各地での私のリサイタルの良き理解者として、いつも私を支えてくれるのですが、私がくじけそうになる時に、「君は歌うために生まれてきたのだから頑張れ!」とハッパをかけてくれます。彼は作曲家であり、オペラや歌曲も書いていますが、指揮者としても才能を発揮しています。毎日の私の生活は、彼の批評で始まり、彼の批評で終わります。でも、それが私の幸運だと思つています。夫は、私の姿を映し出してくれる鏡なのです。数日後にリサイタルを控えたあたしは毎日ですが、彼のイタリア人の両親が私たちをしっかりと支えてくれています。社会の最小単位である家族というのが、私の姿を映し出す鏡なのです。それはまるで魔法の鏡のようです。

日本で歌いたい、優しさ

今まで外国でばかり歌つて来ましたので、何人かの日本の方々から「日本でも歌つて」と良く言われます。日本語の素晴らしい歌曲などを歌いたいという欲求を隠すことができません。外国各地の小さな町でのコンサートとか、大きな劇場で蝶々夫人を歌う時とか、古い懐かしい歌曲などを歌うリサイタルでも、最前列のある老人が幸せそうに、私の歌を聴きながら涙を流していたり、可愛い子供達が驚きに目を見はつたり、幸せな人々が苦しみと同感したり涙を流したり、疲れた人々が私の歌を聞いて少しでもその疲れが和らげられたりして、また明日も頑張ろうとその瞳が輝く時、私は幸せなのです。私は、歌つた後、皆で話をするのが好きなのです。その人の話を伺つて、どんな事を私の歌に感じたかとか、夜中まで美酒を味わいながら話に花が咲くのです。これはもうやめられません。歌には国境がありません。真のやさしさに触れる感じがするのです。本当のやさしさとは何かをいつも考えます。人々に対していつも真に優しい人間で、また自然に対しても真にやさしい人間で、しかし環境に対しては常にきびしい人間でありたいといつも考えております。

Zucchi Rieko (ROMA 6.4.1998)

野田 理恵子さんのプロフィール

昭和三十一年生まれ。東京芸術大学音楽科卒。大学在学中に劇団四季研究所で研鑽を積み、ミラノ・スカラ座研修所終了後、イタリア・ルッカのブッチーニ国際コンクールで一位なしの二位、シエナのバステリアーニ国際コンクールで二位、レッツェのティート・スキーパ国際コンクールで一位なしの二位他、入賞多数。スペイン・バルセロナのフランシスコ・ヴァーニャス国際コンクールのマダム・パタフライ部門で優勝。スペインでバタフライ役でデビュー好評を博す。以来、世界各地で活躍。日本歌曲、イタリア歌曲、ドイツ歌曲、フランス歌曲、スペイン歌曲、ロシア歌曲、ジャズなどのリサイタル、またオラトリオ、宗教曲のコンサートも多数。指揮者、歌曲伴奏者、作曲家としても活躍中のイタリア人ピアノリストと結婚。三女の母。イタリアのレカナティでベニアミノー・ジッリの生誕百年記念のコンサート、日本でオペラと歌曲のリサイタルなどが今夏のプログラムとして組まれている。二枚目のCD発売予定。詳細はパッハ協会音楽事務所まで。

芸能プロダクションで

自分の夢を再生産

日高由紀子さん(高二十八回)

日高さんは、石神井を卒業後、成蹊大学文学部日本文学科へ。在学中からジャズボーカルのマサ三宅氏に師事し、歌い手として活動した。大学卒業後は生命保険会社アlicoジャパンへ就職。やがて明治生命に移るなど、生命保険の営業畑を歩んだ。平成九年、明治生命新浦安営業所の支部長職を最後に退職し、株式会社ワコープロダクションを設立。音楽プロダクションの経営という新しい道を歩き始めた。

★ ★

—生命保険の営業からプロダクションを設立されたあたりのいきさつを—

簡単な言い方ですけれど、やっぱり「音楽」に携わる仕事をするのが夢でした。学生時代から歌の世界を目指して来たのですけれど、自分自身が歌い手として活躍するチャンスには恵まれませんでした。それで音楽を離れたビジネスの世界に進みました。もちろんそれなりの苦労もありましたが、営業の経験もそれはそれで充実していたと思います。ただ、音楽ビジネスへの想いはずっと持ち続けていました。数年前に出資など援助をしてくれる方が現れたのをチャンスに、現在のプロダクションを設立したわけです。

—日高さんご自身も歌手として活動されるのですか？

あと十歳若かったらやってたでしょうね(笑)。自分自身で歌うわけではないのですが、ひとりの歌手を世に送り出して、より多くの人達に歌を聞いていただいて、ビジネスとしても成り立たせるというのは、充分に創造的な仕事だと思うのです。自分がかつて抱いていた夢を、現実化させていく役割を受け持つことなのでしょうね。

今売り出しているのは演歌の歌手なのですが、一回りくらいしか歳も離れていないので、「一緒にがんばろう」という感じがします。他人のお世話をしている、という感覚はありません。自分自身が

全力でがんばっている、といった感じです。正直なところ、私もずっとこの世界に生きてきた訳ではなく、いわば素人なんです。毎日毎日が勉強の連続ですね。きついことはきついけれど、すごくエキサイティングな仕事ですね。

—これからの目標などをお聞かせいただけますか？

いまのところはとて将来のことを考えるどころじゃありません。一日一日が精一杯という感じですね。

この世界ではまだ若手ですが、私も四十の舞台に乗りました。こんなことって、歳を隠しようがないしその必要もないのが、同窓会誌のいいところですね(笑)。

それで最近感じるのはですが、若いときにはわからない仕事の楽しさが、段々わかってくるような感じがしているんです。女性には、若いときはそれなりにチャホヤされて楽しい時期があると思います。が、それはそれだけのことでいいのでしょうか。「私がやる」といった責任ある仕事をするのは、なかなか大変です。多くの先輩方に向かって、憎めない言い方だとは思いますが、女だてらと言われても「私が手がけて、なんとかしてやろう」という意気込みを持つのは、とても快感なんです。

「おもしろいのは三十半ばから」とよくいいますが、特に働く女性にとってはそうなのではないでしょうか。少なくとも、私はそんな感じがします。

—カラオケ業界誌に、若くて美しい女性社長として紹介されていますね？



あなたに届けたい、艶やかに、ひそやかに
最後の我が俵 わがまま)

幡 千恵子



TEL 03(5687)1411

株式会社
ワコープロダクション
代表取締役
日高 由紀子

見え透いた業界誌のお世辞であってもそれがなにかの飾りになつてうちの歌手の知名度が上がるのならばなんといわれても構いません。ヒロだつてやりますよ(笑)。それくらい、今は仕事、仕事です。以前ならば「女性社長」なんて扱いはされること自体抵抗あったでしょうね。

今は、ともかく「コロムビアレコード専属の幡千恵子最後の我が俵(わがまま)」良い曲です。ぜひよろしく願います！

(聞き手：板谷)

私は女優一年生、「日置ゆき」です。

日置由紀子さん(高五十回)

私は今春、都立石神井高校を五十期生として卒業しました。現在、TVやCM、雑誌などの仕事を楽しんで頑張っています。石神井高校在学中、私は女子柔道部部長として活動してきました。そして三年間を通して、顧問の久永哲雄先生や大月正先生、OBやOGの方々、友人・後輩から、忍耐力や根性、協力しあうことの大切さ、そして一つのことをやり遂げた時の満足感や感動など、とても多くのことを学ぶことができました。そしてその事を誇りに思っ、自信を持っています。仕事に取り組んでいます。きっとこれからも沢山の壁にぶつかるとは思いますが、高校生活の三年間を生かして、乗り越えていきたいと思っています。これからもいろいろな事に石神井の誇りをもって、全力で挑戦していきたいと思っています。先輩方も応援し

てください！ よろしく願います。

(「柔道部で活躍していた子が、卒業後女優の道に進みました！ぜひ紹介して」と加藤純子先生から熱烈な紹介をいただきました。ロケの仕込み最中に取材をお願いしたので、直接お会いできず、ロケ先からお手紙をお願いすることになりました。かわいいお手紙をありがとうございます。がんばってくださいね。)



パンの店

リスドオル ミツ

JR中央線西荻窪駅南口徒歩2分

03-3332-9683 (代)

製パン一級技能士

廣瀬満雄 (高21回)

青木慶子先生をお訪ねして

母校石神井高校に初めて女性の教員として採用され、長年体育の教師として活躍された青木慶子先生にいろいろとお話を伺いました。

お会いする約束の日はいくくの雨模様。待ち合わせ場所は武蔵関の駅前のあの懐かしき「白鳥」です。卒業以来三十年の年月を越えての再会!。「わかるかな?」と内心、心配しながら先生を待ちました。お店のドアが開くたびに、立ち上ってドキドキの連続。そして何度目かドアが開いたとき、私はすぐ先生とわかりました。三十年も経っているのに「あっ先生だ」と、またたくまにあの頃の自分にタイムスリップしてしまいました。まずは、なによりお元気でいらっしやることにびっく。七十四才とおっしゃっていました

が、とても素敵で若々しくおきれいで、あの頃の少しだけ恐れ青木先生のイメージはなくて、やさしい笑顔でたくさんのお話を下さいました。

★ ★ ★

――まずは簡単な経歴からお聞かせ下さい。

滋賀県彦根市で五年ほど教師をして、結婚を機に東京へ来ました。私の師であるお茶の水女子大学の戸倉教授のお勧めで都の試験を受けました。都立立川高校へ話を聴きに行ったところ、立川高校では女性を採らなくて、次に行ったのが石神井で



既婚者でした。私は、結婚してから、採ってくれたんです。生徒は男子のみ、教師も男性ばかりでした。ちょうど卒業女性第一

期が二年生の時だったと思います。私より三ヶ月前に黒川先生が唯一人講師として着任されていらっしやいました。

(編集部注: 記録によれば、青木先生の在職期間は昭和二十六年六月から昭和六十年三月まで、三十四年間にわたり、黒川和代先生(故人)は昭和二十六年二月から昭和四十五年三月となっていました。)

――今年の「きずな」では、特集として「石神井の女性」というテーマになっていますので、そのあたりを伺いたいとおもいます。先生という職業を振り返られていかがですか?

そうですね。女性の職業としてとり早く良い職業であると思います。春・夏・冬とお休みがありますしね。私の場合は、自宅が学校に近かったから何もなければ早めに、明るいうちに帰宅しました。一応きまりでは、午後五時までいなくてはいけなかったのですが、もちろん学校の仕事を家に持って帰って、家事を片づけてからやっていました。

――立派なお子さんを育てられた訳ですが、

そうですね。子供が小さい時は、背中におんぶして部活を見たり、また女子バスケット部の合宿にも連れていきましたね。だから当時の生徒に会うと、あの時のお子さんは大きくなりましたでしょうとよく聞かれます。今は三省堂に勤めていますけれど。

それと修学旅行などの出張の時は、友人に見てもらいました。これはお互いにね、そういう助け合いみたいなものがあつたんですよ。また職員会議などで遅くなると、我が家の夕飯のおかずは決まってコロケ。帰りに肉屋さんで買っていくものです。私の息子が小学生の時の作文でこのコロケのことを書いたら、担任の先生が「うちの夕食も同じだよ」と話されたそうです(笑)

子供が熱を出した時には、よく言って聞かせて、

寝ている枕のまわりに、食べ物やお水、おもちゃに本などを全部置いて、学校に出勤しました。

――石神井の思い出はたくさんお持ちでしょうが、いくつかをお聞かせください。

もう退職して十年以上経ちました。

定年の時、それぐらいの年齢になると、もつとていねいに「教育」ができると思いました。そう、六十五才くらいまでは十分できると思います。引き続き講師としてお勤めする方もいらっしゃると思いますが、私は全くやめまして、家にこもり少々体調を崩して病気になるてしまいました。良い思い出のひとつに、先生方の読書会があります。当時の畑山校長、坊城教頭が中心になって、いろんな本を読んで、専門以外のことも勉強しました。当時はずっと「自由だった」と思います。教員も生徒もね。

高校入試制度が、学校群、グループ選択と大きく変わり、一時期は母校精神が少ない生徒が増えた時もありましたし、学園紛争もありました。

――当時先生がお持ちになっていたお考えや生徒への接し方はいかがでしたか?

ええ。私の性格はあっさりしているほうだと思っています。過去にとらわれず、前に向かって常に前へ前へと進む。そう思っていました。あとは、態度ある美しさ。態度ですね。キビキビとすること。嫌いなのは、時間を守らないこと。早退は良いが遅刻は嫌いました。

――現在の石神井高校にはどんな印象をお持ちでしょうか?

退職して十数年がたち、いまの高校についてどうだ、というようなお話はあまりしないようにしているんですよ。家の近所でも私が石神井高の教師だったということは、ほとんど知らないのではないでしようか。

でも、素晴らしいことに、石神井には先生のO

B会があるんですよ。毎年一回ぐらい集まって、ワイワイやるんです。大体、石神井で定年になられた先生が多く出席されます。懐かしいお話などたくさん出て、とても楽しみです。幹事は持ち回りですね!

でも、段々お亡くなりになったとか、お葬式の話が出たりするので、少々寂しくなりますね。

(お話を終えて)

ちょっと寂しそうに先生はお話を締めくくられました。しかし、長い教員生活を、自然な一人の人間として、また女性として肩肘はらずに続けてこられたのだなあと感じました。また、女性が仕事を続けていく時には、誰でも直面する仕事と家庭のどちらを優先するのかという悩みを、色々な工夫や暖かな友情で、そして周りの方々の協力で乗り切ってこられたということもあるでしょう。特別なことをしている意識せず、先生のように自然に人間らしく人生を歩みたいものです。現在日本で一番大切にしなければいけないものは、何もう難しいことではなく、人間らしく自然に、ということなのではないのかと、先生とお話していて強く感じました。

聞き手: 勝見鈴代(高二十回)



かねがえ矯正歯科クリニック

歯学博士 鐘ヶ江 晴秀 高校20回)

〒194-0022 町田市森野1-36-11 ビオレ町田ビル6F
TEL 427-22-4182

小田急線町田駅東口、北口出口より徒歩1分

同窓会紙「きずな」の編集スタッフ求む!

次の「きずな48号」の編集をボランティアでお手伝いしてくれる同窓生を募集しています。ご希望の方は、03-5216-7346 板谷までご連絡ください。

黒菱山荘へのお誘い

黒菱山荘は、冬季オリンピック長野大会のアルペン競技(滑降系)およびノルディック(ジャンプ)の会場となった白馬村八方尾根に1961年より建っている歴史ある山荘です。以前は学校行事の宿泊施設として用いており、在学中に山荘を訪れた方も多いことと思います。新緑の初夏・牧場の緑も鮮やかな夏・燃えるような紅葉の秋・そして長い銀世界の冬。青春の思い出探しに、新たな自分の発見に、山荘はそんなあなたをお待ちしています。四季折々の中での山荘の生活を満喫してみませんか。



★山荘の利用方法

利用については以下のように定めておりますので、理解をお願いいたします。

- 資格** 石神井高校生(ただし保護者の同伴)・PTA会員・同窓会員・教員・その同伴者
- 宿泊費** 同窓会員 学生 1200円 社会人 1400円 会員外200円増し
※ただし冬季は暖房費用として200円いただきます
- 期間** 基本的には制限しませんが、山荘に不慣れな方は山荘管理者の入荘期間をお勧めいたします。まず下記受付に連絡してください。
- 申込み** 東京受付(03-5985-7109)佐藤賢二(高26回)へ連絡してください。その際利用者氏名、利用者数、利用期間等必要事項を伝えて下さい。利用費用の振込先など、詳細をお知らせいたします。

★山荘の運営

現在山荘は、黒菱山荘委員会により管理運営しております。山荘管理者(主に大学生)は基本的に長期の休業中の一定期間入荘いたします。以前(高校生が利用していた頃)とは異なった管理形態をとっております。山荘では利用者が炊事・掃除・雪下ろし(冬季中)等の山荘内での作業を共同で行います。従って、管理者が入荘している期間であっても、管理者が食事の用意などを行うということはありません。あくまでも共同生活の場であることを認識された上で利用してください。

山荘の保守のために、委員会では、年二・三回の補修、燃料の補充などを行っております。そして、山荘がこれからも永くみなさんに利用していただけるような努力を続けておりますが、高い標高・冬の荒天の中で三十六年もの歳月を乗り越えてきたために、雨漏り等する箇所・老朽化している箇所があります。山荘委員会の仲間達により何とか良い改善策などを模索して山荘を長生きさせるよう工夫をしています。早急に修理しなければならない箇所は多くありますが、山荘の長生きの最大のポイントは、数多くの方に利用していただくことと考えております。昔を思い出しての利用、未知の山荘体験としての利用、石神井の同窓生の利用を心待ちにしております。

山荘委員会委員長

千賀可一 Tel 03-3394-6661 〒167-0035 杉並区今川4-8-1
広報担当

泉水裕二 Tel 03-3385-8996 〒165-0025 中野区沼袋4-35-3

Welcome to Kurobishi!.....♥♥♥

山荘へは、ゴールデンウィーク、夏のお盆休み、年末年始、2.3月のスキーシーズンに入荘して、卒業生の方々と楽しく共同生活をしています。皆さまにも、ぜひ足を運んでいただきたいと思っています。

松田慶子 東京農業大学4年(高46回)

☆今春卒業の、フレッシュ0B・0Gを紹介します。

阿部 敏・東洋大学1年(50回)

福井繪里子・立教大学1年(〃)

●年中無休 AM10時～PM10時



日帰り温泉
露天風呂

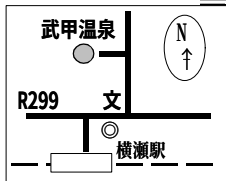
秩父湯元 武甲温泉

☎0494-25-5151

ニッコリ コイコイ

西武秩父線横瀬駅下車徒歩8分

★横瀬駅には、西武特急レッドアローが4月から停まります。



冬季オリンピックが長野で開かれました。男子アルペン滑降のスタート問題では世界を湧かせてしまいい、八方尾根の名は全国に知られたことと思います。山荘にも、オリンピックの観戦(というよりもその雰囲気味わっていたような?)のための入荘者が多数ありました。天候に左右されやすいアルペン競技は、日程通りに実施できませんでした。が世界のトップスキーヤーの滑りを見ることができました。また、八方尾根スキー場に隣接する白馬ジャンプ競技場では、日本選手団の大活躍により多くのメダルを獲得し、大いに盛り上がりしました。

(文責・泉水)

オリンピックと黒菱山荘

